第２節　自然等の状況

１　熊谷市指定記念物・天然記念物

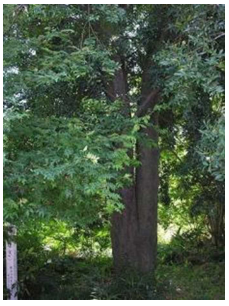
①カヤ（拾六間　徳蔵寺）	樹高２３ｍ、幹回り３．６ｍ、江戸時代中期頃から生育と伝わる。
②イチイガシ（拾六間　徳蔵寺）	樹高約３５ｍ、幹回り２．６ｍで地上から約６ｍのところで双幹となっている。江戸時代後期から生育と伝わる。
③イヌザクラ（三ヶ尻　個人）	樹高約１５ｍ、幹回り３ｍ。江戸時代中期頃から生育し、この種としては県下で一番古い。
④クロガネモチ（肥塚　個人）	樹高約１２ｍ、幹回り約２ｍ、江戸時代中期頃から生育と伝わる。
⑤ナギ（新堀新田　個人）	樹高２５ｍ、幹回り１．９ｍ、江戸時代中期頃から生育と推定。
⑥ムクロジ（東別府　香林寺）	樹高１６ｍ、幹回り１．９ｍ、江戸時代後期から生育と推定。もくれんじゅとも呼ばれる。
⑦キャラボク（原島　養平寺）	樹高２．５ｍ、幹回り０．９６ｍ、江戸時代中期頃から生育と伝わる。
⑧スズカケノキ（末広　熊谷女子高校）	樹高約３０ｍ、幹回り５．０ｍ、明治４４年（１９１１）頃に新宿御苑の母株から移植されたと推定される。
⑨カヤ（中奈良　国性寺）	樹高２５ｍ、幹回り３．６ｍ、江戸時代前期頃から生育と推定。
⑩シイノキ（ハツロ　長昌寺）	樹高９ｍ、平安時代末頃、この地を斎藤実盛が鬼門除けの祈願所に選び、そのあかしとして植えた３本のうち、唯一残ったものといわれる。

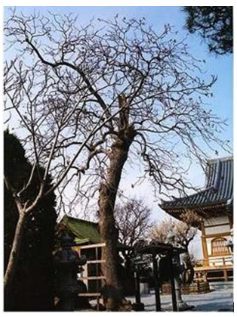

①カヤ
（拾六間　徳蔵寺）

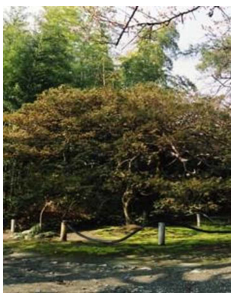

②イチイガシ
（拾六間　徳蔵寺）


③イヌザクラ
（三ヶ尻　個人）

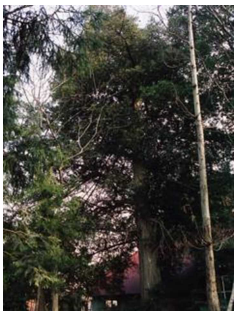

④クロガネモチ
（肥塚　個人）

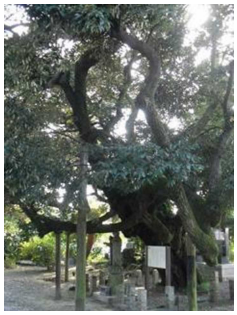

⑤ナギ
（新堀新田　個人）


⑥ムクロジ
（東別府　香林寺）


⑦キャラボク
（原島　養平寺）


⑧スズカケノキ
（末広　熊谷女子高校）


⑨カヤ
（中奈良　国性寺）


⑩シイノキ
（ハツロ　長昌寺）

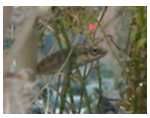
２　自然等の状況概要図

本市には、豊かな水辺、平地林や斜面林など変化に富んだ環境に多様な動植物が生育しています。

しかし、近年の動植物を取り巻く環境の変化により個体数の減少が見られ、この中にはムサシトミヨなどの絶滅危惧種等も含まれ、生息・生育環境そのものの保全が課題となっています。

また、外来生物の侵入による生態系への影響等も懸念されています。



地区	番号	名称	説明
熊谷	①	元荒川周辺	ムサシトミヨが生息する元荒川の源流部の県指定天然記念物区間は、平成２０年６月に平成の名水百選に選定されました。この地域は、熊谷市やムサシトミヨ保全推進協議会（地元自治会・環境団体・行政などで構成）により保全活動がなされています。
	②	三尻観音山 （市指定記念物・名勝）	荒川の浸食により残った丘陵（残丘と言われている）で、アカマツやクヌギなどからなる樹林の林床には、低地性のニッコウキスゲやカタクリの小群落があります。 ヤマガラ、カケス等樹林性の鳥類も確認されています。 また、南側に沿って流れる小川にはシジミやカワニナが生息しています。
	③	荒川大麻生公園	大麻生地区に広がる荒川河川敷は扇状地特有の形態をなし、全国でも有数のカワラナデシコの群落地で、他に、カワラサイコ、カワラハハコなど河原特有の植物が自生しており、これらは毎年の火入により環境の保全が図られています。 野鳥の種類も多く、水面や砂礫地ではコハクチョウ、カモ類、シギ・チドリ類、サギ類、草原や潅木林ではヒバリ、ホオジロ、キジなど、明るい林や森ではエナガやアオゲラが観察できます。春と秋の渡りの時期にはキビタキ・オオルリ、冬にはベニマシコやミヤマホオジロなどが観察され、オオタカ、フクロウなどの猛きん類も１年を通じて観察されます。昆虫類では、ヒメビロウドカミキリ、ミヤマセセリ、ミヤマチャバネセセリなども確認されています。
	④	別府沼公園	貴重な自然が残されている総合公園として整備されています。ここにはミゾコウジュ、ヒメシロアサザ、ミクリなど、多くの湿生植物が繁殖しています。 その生育環境は「別府沼を考える会」を中心として行われている保護活動などにより守られており、イタチ、ノウサギなどの哺乳類が観察されているほか、鳥類はカイツブリ、カワセミなどの水辺の鳥、冬場は多くのカモ類が越冬しています。 国内の別の地域から移入したヌマガエルや、オオクチバスなどの特定外来生物も確認されています。
大里	⑤	切れ所 （市指定記念物・名勝）	度重なる荒川洪水の破堤により形成された沼で、昭和１３年（１９３８）９月１日に上陸した台風により、現在の形に拡大しました。現在は釣りが楽しめます。
	⑥	中の渕 （市指定記念物・名勝）	度重なる荒川洪水の破堤により形成された沼で、形成当初よりは規模が小さくなりましたが、安定した水量を維持しています。現在は釣りが楽しめます。
妻沼	⑦	備前渠用水	慶長９年（１６０４）に、伊奈備前守忠次が開削した埼玉県最古の用水路で、「疎水百選」にも選定されており、今でも素掘りの所が多く、当時の面影を残しています。
	⑧	江袋溜井 （江袋沼）	この沼は、慶長年間（１６００年頃）に伊奈備前守の命によって開発された溜井（農業用水の貯留池）で、そのほとりには弁天様が祭られています。キタミソウやショウブ、カワセミなどの希少な動植物が生息する水辺空間です。 生態系を保護しながらの護岸整備を行っており、キタミソウなどの希少植物の観察をすることができます。
江南	—	江南台地	江南台地では斜面林や平地林が形成されており、クヌギ、コナラに加え、植林されたスギやヒノキが見られます。また、大沼など多くの池沼が点在しているのも特徴です。動物は、アナグマ、タヌキ、キツネ、イタチ、ノウサギなどの中型の哺乳類が確認されています。野鳥は、ホオジロ、ウグイス、ホトトギス、アカゲラに加え、オオタカ、フクロウなど猛きん類が観察されます。
	—	ため池と棚田	江南台地及び比企丘陵が広がる地域では、中世以降、灌漑用のため池が数多く築かれました。その下には棚田が広がっており、自然の造形と先人の知恵が融合した独特の景観を形成しています。
	⑨	大沼自然環境保全地域	大沼と天然性のアカマツ林からなり、自然性の高い状態を維持しており、自然植生の極めて少ない埼玉県北部としては貴重な存在です。 埼玉県自然環境保全条例の指定を受けて保全されており、カモ類の越冬も見られます。
	—	里山保全活動	人の手が入らなくなり、荒れ放題になっていた里山を、ふれあいの場として、整備することを目標に、木の間伐や下草刈りが三本自治会及び小江川自治会を中心に定期的に行われています。
	—	ホタルの保護活動	千代地区・柴地区・樋春地区・上新田地区などでゲンジボタルが繁殖しています。うち、7か所は「熊谷市ホタルの保護に関する条例」で保護重点区域に指定されています。 平成２４年２月には、熊谷市ほたるを保護する会が発足し、ホタルの保全活動を行っています。
	⑩	荒川・押切虫の音	残したい日本の音風景百選（平成8年環境庁）」に選定された地域で、マツムシ、スズムシ、カンタン、エンマコオロギなど29種類の鳴く虫が確認されています。